NPO 法人インテリジェンス研究所・早稲田大学 20 世紀メディア研究所共催

第２２回諜報研究会第Ｉ部　インテリジェンス見学ツアー

2018 年 5 月 26 日（土）10:50～

・資料作成・案内：正田浩由（インテリジェンス研究所事務局長、鎌倉女子大学講師）

・順路

①軍人会館　②防諜研究所　③大隈重信邸　④憲兵司令部・東京憲兵隊本部　⑤近衛砲兵大隊　⑥吉田茂銅像
⑦近衛歩兵第二連隊　⑧近衛歩兵第一連隊　⑨昭和天皇御野立所

昭和14年、仮校舎だった愛国婦人会本部裏にて。左から丸崎義男、牧澤義夫、阿部直義（いずれも第一期生。写真は生前牧澤氏より供与）

山本武利『陸軍中野学校　「秘密工作員」養成機関の実像』筑摩書房、2017 年、所収、55 頁。

軍人会館
①
昭和天皇御野立所
⑨
防諜研究所
②
大隈重信邸
③
憲兵司令部
東京憲兵隊
④
近衛砲兵大隊
⑤
吉田茂銅像
⑥
旧陸軍 近衛歩兵
第二連隊 跡
⑦
近衛歩兵第一
聯隊跡記念碑
⑧
九段下
昭和館
しょうけい館
田安門
九段坂公園
千鳥ヶ淵緑道
日本武道館
千代田会館
清水門
皇警宿舎
清水濠
メゾン北の丸
科学技術館
代官町住宅
北の丸公園
東京国立近代美術館
東京国立近代
美術館工芸館
千鳥ヶ淵
平川濠
首都高速都心環状線
みずほ国分寺支店
九段中央ビル
東京法務局
一般財団法人
日本遺族会

①

軍人會館
完成す
三月廿五日
落成式擧行

『東京朝日新聞』1934 年 2 月 22 日朝刊

「二十六日午前、省部の首脳部は憲兵司令部に移ったが、野中中隊によって占拠された警視庁は、小栗総監の決断により、その朝、九段下に近い神田錦町警察署に移った。また、同夜陸相官邸に一夜をあかした軍事参議官は、九段上の偕行社新館に引き上げ、爾後ここを本拠としたし、さらに、二十七日午前三時戒厳司令官を命ぜられた香椎浩平中将は、午前六時軍人会館にその司令部を開設した。こうして九段界隈は軍の中枢地帯となった。」大谷敬二郎（元東京憲兵隊長）『昭和憲兵史』みすず書房、1966 年、173 頁。

②

「集合二日目、十八名の青年将校たちは、九段下、軍人会館の裏手に当たる二階建木造のバラックに案内された。門を入る時、チラと眺めた標札には「愛国婦人会」と書かれてあった。久村たちがみちびかれたのは、三階建本建築の婦人会本部本屋のほうではなく、地方議員の参集会議室に使用されている別棟であることは後にわかった。建物はお粗末だったが、窓からはお濠の美しい水の色が眺められた。牛ヶ淵と名づけられたお濠をへだてて見える、近衛歩兵連隊の土手の芝の緑もあざやかだった。窓のすぐ下は隣の九段精華女学校の運動場になっており、

若アユのような肢体の少女たちが、ボール遊びに興じている光景がみられた。」日下部一郎（一期生）『陸軍中野学校実録』弘文堂、1963 年、14-15 頁。

「九段下の九段精華高等女学校は幼稚園から女学校までの一貫教育で、小学校は男女共学であった。空襲により校舎が全焼したため校長が廃校宣言し、敗戦とともに校舎跡地は米軍に接収され、モータープールとして使われた。学校関係者は接収解除の嘆願書を持って米軍司令部、関係官庁をまわり奔走したが、復校ならず、最後の三〇、三一回卒業生は焼け跡で涙ながらに校歌を歌い卒業式をした。その後同窓会が財団となり学校の財産を継承し、育英事業にのりだし、大学生、高校生の奨学制度を実施した。」
『千代田区女性史　第二巻』ドメス出版、2000 年、136 頁。

④
「憲兵司令部、同練習所、東京憲兵隊本部、麹町憲兵分隊庁舎は麹町区竹平町三番地（旧仏国大使館敷地跡）に新築工事竣工に付昭和十年七月十七日より三日間に亘り麹町区丸之内一丁目十番地（大手門前）旧庁舎より逐次移転し七月十九日を以て全部移転完了、同日より事務を開始した」全国憲友会連合会編纂委員会編『日本憲兵正史』全国憲友会連合会本部、1976 年、1422 頁。

「大東亜戦争は、緒戦に赫々たる戦勝をあげ東条内閣は安泰かに見えたが、敵の反攻にわが旗色がわるくなると、東条の暗黒政治が始まり、これに駆使された東条憲兵は、東条政権擁護に動いて、醜名を後世にさらしてしまった。弾圧、恐怖、暗黒といった警察権力の局限を、東条政権の維持存続のために、つかった当時の東京憲兵隊は、憲兵史上、最大の汚点を印したものである。」前掲『昭和憲兵史』11 頁。

「『憲兵は恐ろしくて、何事も本当の話ができなかった。長いつき合いだと思い、つい、気を許して、政治家の動きや、政界、財界あたりの噂話をしても、それがすぐはねかえって、一寸来いとくる。全くお話にならぬ暴虐ぶりだった。』
　被害をうけた一老政治家の、いきどおりに徹した述懐である。
　また、命ぜられるままに働いた、東京憲兵たちは、こういっていた。
『良心的にいって、こんなことをしていてよいものかとの自省はあった。〝ひどいなあ〟と思うことも、しばしばあった。何しろ司法検挙で

はなくて、ただ、相手を引張ってきて、たたけば埃りが出るといったやり方だった。政治家だろうが、役人だろうが、人かまわずの弾圧命令だった。調べてみると、たいていは、その人に加えられた中傷だった。せめて無理に事件としなかったことが、私達の罪滅しだとも思う。』共に、四方隊長のあと東京隊長になった私が、直接聞いた話である。」同上、449－450 頁。

⑥

「吉田も戦犯に問われる可能性がなかったわけではない。広田〔弘毅〕内閣で外相に擬せられたとき、牧野伸顕の女婿で英米派と見られ、軍部の反対にあって、ついに実現しなかったけれど、あのとき外相に就任していたら、日本の大陸侵略の責任を追及される立場におかれていたにちがいない。

吉田は軍部に抵抗したということになっているが、彼の〝反軍思想〟はそういうところに根ざしているのであって、日本帝国主義の忠実な使徒であったことに変りはない。終始軍部のお先棒をかついだ森恪と吉田が肝胆相照す仲であったのを見ても、これは明らかである。太平洋戦争の末期に憲兵隊につかまったというが、吉田の実体は反軍でも反戦でもなく、権力そのものへの抵抗でもなかった。権力意欲のきわめて強い人格が、別個の権力、より強い権力に反発したにすぎない。」大宅壮一「吉田が死んで戦後は終った」（堀真清編『原典でよむ日本デモクラシー論集』2013 年、岩波書店、所収、140 頁）。

⑨

「（昭和五年三月）二十四日　月曜日　復興帝都巡幸のため、午前九時四十五分、自動車にて御出門になる。御出発に先立ち、御学問所において内閣総理大臣浜口雄幸及び本巡幸に列外扈従の内務大臣安達謙蔵・復興局長官中川望・東京府知事牛塚虎太郎・東京市長堀切善次郎に謁を賜う。御出門後、馬場先門跡より昭和通り、大正通りの道順にて芝・京橋・日本橋方面を巡られ、九段坂上より田安門内に入られる。十時十七分、近衛歩兵第一聯隊将校集会所前において下車され、石垣上にある御野立所にて元関東戒厳司令官福田雅太郎・東京警備司令官長谷川直敏・近衛師団長林銑十郎に謁を賜う。ついで同所より中川復興局長官の説明のもと復興状況を御展望になる。」『昭和天皇実録』第五巻、東京書籍、2016 年。

参考文献

・陸軍中野学校関係
日下部一郎『陸軍中野学校実録』弘文堂、1963 年。
中野校友会編『陸軍中野学校』1978 年。
千代田区女性史編集委員会編『千代田区女性史　第二巻』ドメス出版、2000 年。
山本武利『陸軍中野学校　「秘密工作員」養成機関の実像』筑摩書房、2017 年。

・憲兵・吉田茂関係
大谷敬二郎『昭和憲兵史』みすず書房、1966 年。
全国憲友会連合会編纂委員会編『日本憲兵正史』1976 年。
吉田茂『回想十年　1 』中央公論社、1998 年。
堀真清編『原典でよむ日本デモクラシー論集』岩波書店、2013 年。

・竹橋事件関係
竹橋事件 100 周年記念出版編集委員会『竹橋事件の兵士たち』徳間書店、1979 年。
竹橋事件の真相を明らかにする会編『自由民権・東京史跡探訪』昭和出版、1984 年。
澤地久枝『火はわが胸中にあり』岩波書店、2008 年。

・昭和天皇関係
『昭和天皇実録』第五巻、東京書籍、2016 年。